

若さ溢れ活気ある作品が多数!

公津の社コミュニティセンターでは、「若い芽の作品展」事業として、地域若手作家の活動支援を行っており、その一環で当館2階にあるギャラリーを展示場所として提供しています。

6月27日(日)から7月6日(火)までは、千葉県立成田国際高等学校写真部による作品展が行われました。

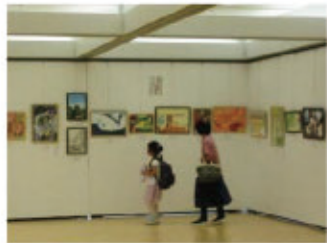
日頃の活動により撮りためた写真を多数展示し、訪れた人たちの目をひいていました。ある日、1枚1枚構図などについて真剣に話している方々が見受けられました。会議室で活動されていたアートフォトサークルの方々でした。大人とは違った観点に関心を寄せていました。

当館では、アートフォトコンテストを開催しているのので、入賞目指して応募して欲しいです。

7月9日(金)~7月25日(日)には、成田市立公津の社中学校書道部の作品展が行われました。また7月28日(水)から8月2日(月)までは、同中学校の美術部も加わり合同展示となりました。

新型コロナウイルスの影響で学校の部活動も十分に行えない状況の中、仕上げた作品は、繊細ながらダイナミックな筆使いで書かれており、来場した人の心を引き込んでいました。

「若い芽の作品展」では、近隣の学校の芸術部の作品展示だけでなく、成田市出身で芸術系の学校に進学・卒業した方など成田市にゆかりのある若手芸術家の作品展示も計画しております。開催の際は、ぜひご覧ください。



アイルランドをより身近な国に!

成田市がアイルランドパラリンピックチームのホストタウンになり、アイルランドのことを知ってもらおうと5月8日(土)から6月10日(木)まで開催した「アイルランド展」。6月6日(日)には、ギャラリートークを開催しました。

講演者として、受け入れ事業でアイルランドに派遣された、成田市シティプロモーション部スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック推進室の職員をお招きし、成田市がアイルランドパラリンピック委員会と協定を結ぶまでの経緯や受け入れ準備の様子、アイルランドでかかわった方たちのお話やアイルランドの人々の国民性など現地アイルランドでの様子を事細かくお話して頂きました。他の参加者からは質問が多く寄せられ、アイルランドへの関心の高さが伺えました。

8月アイルランドパラリンピックチームが来日。13日にはアイルランドパラリンピック公式ツイッターにアイルランド国旗を振って歓迎する人々とうなりくんの動画とともに「30時間を超える旅の直後、ホストタウン成田市の歓迎とホスピタリティには、感謝しきれません」と書かれていました。嬉しい限りですね。



音楽や飾りつけで七夕を彩る

夏の風物詩と言えば「七夕」。そんな七夕の雰囲気を感じさせるインスタレーションと笹飾りが登場しました。

6月9日から吹き抜け部分に登場したインスタレーション。天の川の無数の星に見立てた煌びやかな円は台紙に8色の光沢紙を張り付けたものを吊り下げました。空調の風を受けて静かに揺れたり、天井から照明の光が反射したりして、星のように光って見えることもありました。そのインスタレーションの隣には1階から2階の天井まで届きそうなほど、高い笹竹を用意し、来館した人が書いた短冊をぶら下げました。

7月4日(日)には、2階多目的ホールにて、「七夕コンサート」が行われ、昨年に引き続き音楽ユニット「楽・夢・音」(らむね)によりエレクトーン、ハンドベル、ヴィオラの演奏が行われました。エレクトーンでは、上鍵盤・下鍵盤・ペダル鍵盤の3鍵盤それぞれ違う音色により、まるでオーケストラのような迫力あるサウンドを奏でていました。ハンドベルのキラキラとした音色はまるで夜空に輝く星のようで、七夕の雰囲気にうってつけでした。そして今回、聞き馴染みのないヴィオラという楽器が登場しました。見た目は大正琴にそっくりですが、胴体に厚い一枚板を使っているなど構造に違いがあります。また大正琴のようにピックを使って弾く方法以外に、ヴァイオリンのように弓で弦を擦る奏法やギターのように指で弾いたり、スティックで叩くなど様々な奏法があります。エレクトーンとヴィオラの織りなす美しいハーモニーに心が癒されました。



「夏目漱石」を講師と読み解く

7月3日・17日・24日と3日間にわたり、もりんびあ大人ゼミ「夏目漱石を読む」が行われました。東洋学園大学 人間科学部 教授 増満圭子さんに講師を依頼し、漱石文学に描かれた心象風景を中心に読み解きました。1日目は漱石の生い立ちを作品の中にたどりながら人となりに迫り、2日目はロンドン留学時代の様子から「吾輩は猫である」の創作活動に至るまで「吾輩は猫である」の作品分析、3日目は「吾輩は猫である」を猫の視点を通して読み深めました。参加者からは、講座の続編を望む声が多く聞かれました。



図書館だより

ちょっとこわーいおはなしかい

8月17日、杜のなつやすみおはなしかい ちょっとこわーいおはなしかいを MORI×MORI ホールで開催しました。当日は、24名の方にご参加いただきました。

大型絵本『めっきらもつきらどおんどん』、大型絵本『こんたのおつかい』では、こわがりながらも物語のラストでは、安心して笑いだす子もいましたが、おはなし『小さな小さなおばあさん』、『ニョキニョキの話』では、おはなしのこわさに身を寄せ合っ



て聞いている様子も見られました。青や紫のライトで、いつもとは違う雰囲気のホテルに、子どもたちは少し緊張した様子でした。暑い夏の夕方にぴったりなこわいおはなしの世界を満喫しました。



終戦から76年。戦争体験者の話をきく

8月11日(水)、2階 MORI×MORI ホールでは、戦争体験者のお話を聞き、平和について考える「平和の集い」が行われました。成田市平和啓発推進協議会のご協力のもと、岡山美奈子さん、木村美子さんのお二人から貴重なお話を伺えました。岡山さんからは、パラオでの戦争体験として、焼夷弾の雨と爆弾の大空襲や近距離を襲う銃弾の嵐など壮絶な戦場を事細かく聞くことができました。木村さんからは、広島に投下された原爆の惨状を被爆の瞬間、被爆後の広島市内の様子などについてお話いただきました。

平成・令和と時代が移り変わるにつれ、戦争体験者は少なくなつた上、高齢化。若い世代は戦争とは無縁の平和な世界で生き、なかなか戦争・平和について考えることはありません。



木村さんは、「本当ならば、思い出したくもない、話したくもない。だけど、戦争体験者も少なくなり、戦争の悲惨さを語る人がいなくなっている。今を生きる私にとって使命だと思ふ。」とおっしゃっていました。

なかよしひろばだより

成田市児童ふれあい交流事業「運動遊び」で様々な遊びで身体を動かす楽しさを体験しました。講師の運動保育ブレイリーダーの堀内りょうすけ先生と一緒に身体を使ったり、タオルや新聞紙、アルミホイルなど身近なものを使って楽しく遊びました。

遊ぶ前に堀内先生によるミニ講座があり、遊びを通して運動する大切さを知ることが出来ました。

レクチャーの後は早速、親子で身体を使って遊びました。お膝の上で揺らしたり、ママパパの足の間や腕で作ったトンネルをくぐったり。親子で身体を動かして遊ぶと、楽しくなって積極的に動いていました。

タオルとボールを使った遊びでは、参加者のアイデアで生まれた遊びを、皆でやってみると楽しさが増しました。また、新聞紙とアルミホイルでボールやフリスビーなどができ、ママやパパから「家でも子どもとやってみよう」と好評でした。

遊びの中で楽しみながら運動能力を培うことが大切だと実感できたようでした。



おまけの1枚



KOZU-KIDS チャレンジランキングのひとつ。ドラムを演奏することもたち。バスドラム！ランキング！と題され、時間内に何回バスドラム叩ける(踏める)かを競う競技。吹奏楽やバンドを組んでいないと触る機会のないドラムセット。いい経験になったのではないのでしょうか。ただ小さい子には少し難しかったようです。

編集後記

大雨などの自然災害が多いこの頃。心配になり備蓄品を見てみるとレトルト食品の賞味期限が少し切れていました。それと水も賞味期限が迫っており、乾電池は液漏れをおこしていたので、備蓄品を一新しました。いつ我が身に降りかかるかわからない自然災害。備えあれば患いなし！！(K)

自意識と独善は若者の特権だろう。過剰な独白の後に青年は引き金を引く。残されたロツテとニーナは随分な迷惑と引き換えに永遠のヒロインとなった。チェホフの法則に従い『かもめ』一幕に銃が出てきたか覚えはないが。「如何な老人になりしか ウェルテル、トレーブレフ若し生き永らへば」(T)

公津の杜コミュニティセンター

(指定管理者 アクティオ株式会社)

発行人: 田村 修 編集: 鹿嶋 聡明

〒286-0048 千葉県成田市公津の杜4丁目8番地

TEL: 0476-27-5252 FAX: 0476-27-5353

E-mail: info-kozu@morinpiakozu.jp HP: <http://morinpiakozu.jp/>

もりんぴあ
こうづ
Morinpia Kozu